

発見された巨大魚の化石（続報）

先月の広報では、令和7年（2025年）夏の発掘体験で見つかった大きな魚類の脊椎骨の化石についてお伝えしました。この化石について、和歌山県立自然博物館で化石に付着した岩石を取り除くクリーニング作業を実施していただいた結果、新たに判明したことを紹介します。

●化石は4分の1程度の背骨の化石だった

クリーニングを実施する以前の表面観察では、背骨をちょうど真っ二つにした断面だと考えていました。しかし、クリーニングの結果、化石は4分の1ほどの破片であることが分かりました。この脊椎骨は、直径がおよそ3センチメートルの大きさであったと考えられます。

●化石は軟骨魚のサメだった

先月号では、この化石は硬骨魚の背骨である可能性を紹介しましたが、クリーニングの結果、この脊椎骨の化石には側面にいくつもの溝があることが確認されました。これは、軟骨魚のサメ類に見られる特徴です。軟骨

魚の骨は柔らかいため、通常はなかなか化石になりにくく、非常に珍しい化石といえます。

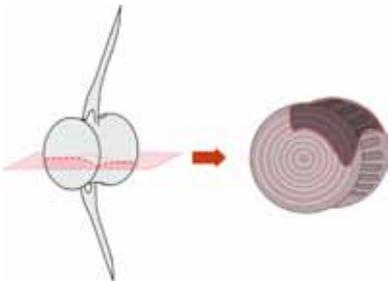
●どんなサメだったのか

この化石は、脊椎の直径が3センチメートルくらいとかなり大きなものです。ワカヤマソウリユウが住んでいた白亜紀の海には、巨大なサメが何種類もいました。その中で、主にアンモナイトをエサとしていた巨大なサメにプティコダス類と呼ばれるグループがあります。

プティコダス類は、タイルを敷き詰めたような歯でアンモナイトを砕いて食べていたと考えられているサメであり、大きなものでは10メートルくらいの大きさになります。町内からは、アンモナイトの化石が数多く発見されることから、このようなアンモナイトを食べるサメ類が存在したと考えても、不思議ではないでしょう。



クリーニング後の化石



先月号のイメージ図と新たに判明した部位の変化